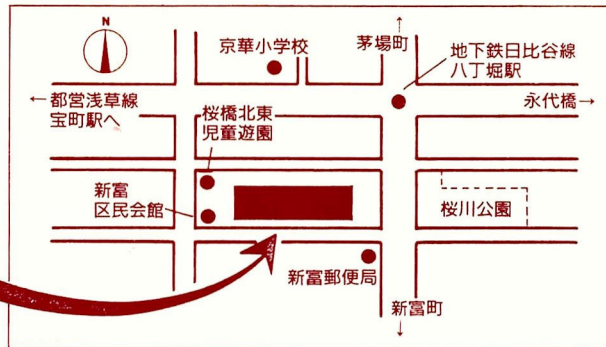


東京都 勤労福祉会館・大ホール

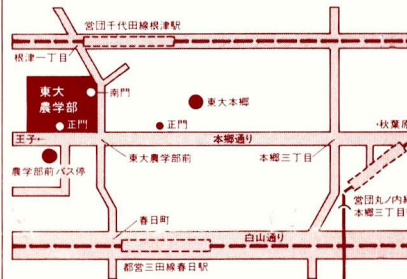
東京都中央区新富1-13-14
電話03-3552-9131



文京区民センター JR水道橋10分 地・後楽園、春日3分



東京大学農学部



『月刊フォーラム』毎月15日発売

- 5月号 ジパング神話の終末
- 6月号 地球環境のポリティカル・エコノミー
- 7月号 責任とらない補償しないニッポン
- 8月号 脳死＝臓器移植の危ない話
- 9月号 PKO派兵 援助のビジネス
クタバレーヤングカルチャー
- 10月号 頑張れ若者文化
- 11月号 ポスト冷戦の思想迷宮
ラビリンス
- 12月号 資本主義は資本主義を超える!?

定価850円(税込) 全国の主要書店・大学生協で発売しています。直接購読の場合は1年間(12冊)10000円(送料含)。事務局まで申込みください。

第3回フォーラム&年次総会

私たちの選択

アジアと世界の中で

1992年・東京12・5(土)～6(日)

「金丸事件」での民衆の怒りの表出を、政治家の個人的責任の追及の域を越えて、日本の政治的意志決定機構の構造それ自体を、「オカミ」の決定から民衆の自治・民主主義へと、権力・金力・暴力の野合による「談合政治」から民衆参加の分権型意志決定へと変える力に発展させることができるでしょうか。私たちフォーラム90sは、何をもってこの流れ、一見抗し難く見えるこの流れに立ち向かえるでしょうか。「豊かな社会」の恩恵に首までつかっている、私たち自身が、アジアの民衆との本当の連帯を考え得るまでに、自己変革できるかを、統一テーマは迫っている。(塩川喜信)

[第1日] 東京都勤労福祉会館大ホール
12月5日(土)11:30～19:00(開場11:00)

- ◆韓国映画『花の名前』上映(11:30～12:10)
- ◆全体フォーラム(13:00～17:00)
- ◆年次総会(17:30～19:20)
- ◆懇親パーティ(19:30～21:00)

[第2日] 分科会文京区民センター&東京大学農学部
12月6日(日)10:00～17:00

[会場案内は裏面にあります]

前売り通し券2000円(当日2500円、当日1日参加1500円)

フォーラム90s事務局 東京都中野区東中野1-41-5
☎03(3367)0943

第3回フォーラム・年次総会 1992年・東京 12・5(土)～6(日) フォーラム90s

私たちの選択ーアジアと世界の中で

【第1日全体フォーラム・総会】

12月5日(土)11:30～19:00

東京都勤労福祉会館大ホール(地下鉄「八丁堀」下車)

◆韓国映画『花の名前』上映(11:30～12:10)

韓国の女性たちから熱烈な支持を受け、約200の労働組合や大学で上映された作品。原題の意味は「小さな花にも名がある」。演出＝キム・ソヨン 脚本・撮影＝ピョン・ヨンジュ。16mmカラー

◆全体フォーラム(13:00～17:00)

【開会の挨拶】水田洋(名城大学)【アピール】韓国・太平洋戦争遺族会(予定)ほか。

【問題提起者】浅野健一(共同通信)、白杵敬子(戦後責任をハッキリさせる会)、河宮信郎(中京大学)、鄭敬謨(シアレヒム社)、平川均(文教大学)、本保品子(逗子市民運動)【討論スターター】池田五律(反戦・平和運動研究会)、坪井照子(保谷市民運動)、降旗節雄(帝京大学)、内田雅敏(弁護士)【司会】伊藤成彦、新美みつ子、田崎英明

◆年次総会(17:30～19:20)

【司会】伊藤誠・白川真澄【開会の挨拶】廣松渉【アピール】朴虎聲(韓国『社会評論』誌編集長・西江大政治学教授)ほか。【活動報告】塩川喜信【財政報告】いいだもも【会計監査】今井清一・岩内亮一【基金活動報告】栗木安延【世話人の選出】【閉会の挨拶】平田清明

◆懇親パーティ(19:30～21:00)

【第2日分科会】

12月6日(日)10:00～17:00

文京区民センター&東京大学農学部

①脱成長社会の可能性と地域自立

脱成長社会は、閉鎖的で貧しく暗い社会への後退なのだろうか。否である。それは、貨幣所得や商品化された財・サービスの供給は減るが、自由時間や非市場的な活動が飛躍的に増える社会とイメージできる。あるいは、資源輸入と製品輸出は必要な範囲に縮小される循環型の経済に移るが、国境を越える人間と文化の交流が活発に進む社会として構想できる。議論の焦点は、どのような手段やプロセスで脱成長社会へ転換するのかという問題に移さねばならない。(白川真澄)

【問題提起】丹野清秋、河宮信郎、塩川喜信、須藤修、中村陽一、古沢広祐、丸山茂樹、宮嶋信夫【司会】白川真澄

②「複合不況」と世界経済の転換

現在の不況は、戦後40年間、高度成長とハイテク化の過程をとおして形成された日本資本主義の構造自体の転換過程のもたらした不況として把握されねばならない。19世紀末不況や30年代不況と匹敵する、世界経済の構造的転換にともなう不況の始まりと位置づけてよいであろう。新しい世界経済の組織化と新しい矛盾の深化とが同時に進行しているのをみれば、不況と危機も全く新しい形をとってあらわれるのは当然であろう。(降旗節雄)

【問題提起】高橋兼宜、降旗節雄、榎本正敏、樋口均、青木孝平【司会】佐々木希一

③トヨタイズム・日本的経営・会社主義

円高不況下の減量経営・ME化を成功させた日本は、会社主義・トヨタイズムの企業共同体を社会的支柱とする生産力的基軸国へと転化し、アジア・太平洋圏への海外投資・ODA投資を激増させ、自らの多国籍企業化を増進しながら、活力ある開発地帯としてのアジア・太平洋圏経済の雁行的發展を促進するにいたった。21世紀へと向かうこの変生期の現代資本主義世界にとって、普遍的意義をもつ主題の徹底討論。(いいだもも)

【問題提起】第1部——会社主義と労働運動(①鉄鋼、②国鉄、③自動車)第2部——アフター・フォードイズムをめぐる(栗木安延「日本型フォードイズム」、磯谷明徳「日本型経済システム」)【司会】いいだもも、中島正道【書記】高橋正久、合沢清

④社会主義像の再構想

東欧諸国につづくソ連の体制的瓦解によって、資本主義の勝利、リベラル民主主義の勝利が謳歌されている。社会主義はかつてない難境に立たされ、社会主義像の根本的な再構想が問われている。

【問題提起】伊藤誠「集権的計画経済の問題点」／山口勇「社会主義的経済メカニズム創造の可能性」／村岡到「レーニンにおける『価値法則』の不在」／上島武「ソ連経済改革の歴史と教訓」／阿曾正浩「ロシア10月革命像の再検討」／大蔵龍吉「議会議民主主義を超えるもの」／片桐薫「社会主義と自由」

【司会】加藤哲郎、松富弘志、志摩玲介

⑤臓器移植からみる世界の未来

臓器移植技術に象徴される先端科学が孕むさまざまな矛盾を、①階層間、南北間での資源分配の偏り、②欲望の運河化、③科学技術の暴走化、④好コントロール装置としての国家の介入による生・死の画一化、⑤それらの総和として結果するマクロなレベルでの自然に対する制御不能性の露呈等々、多様な切り口で解読する。いかなる罵詈雑言も許容するデスマッチ討論会。(池田清彦)

【試合煽動係】池田清彦【レフリー】安藤紀典

【選手】阿部知子、天笠啓祐、柴谷篤弘、森岡正博、その他多数交渉中。【臨時選手】会場においでになった方。

⑥モダンとポスト・モダン再審

第1部「現存社会主義の崩壊と人間諸科学・およびすべての思想の危機」現存社会主義の崩壊は、歴史・人間・社会を対象とする人間諸科学一般の危機、すべての思想の危機を招来している。この危機をふまえて、さらに超えて、われわれはいったい、いまだ、どのような希望を保持できるであろうか。第2部「日本のモダンとポスト・モダン」日本と近代の固有の関係のあり方を再検証し、われわれの身近なコンテクストのなかで、近代そしてポスト・モダンのもつ意味について考えてみたい。(酒井隆史)

【問題提起】石塚省二、斎藤純一、鷺田清一、田崎英明【司会】高橋順一【書記】小池和彦、片山義博

⑦PKO派兵とアジアの再編

米ソ両超大国時代の終わりに象徴されるような世界全体の激動の中で、アジアも最近の中韩国交樹立と韓台の国交断絶、南北朝鮮の首相会談にみる民族統一へのステップ・アップ、米中関係の微妙な変化や中朝関係の不協和音の高まりなど、その構図そのものをまさに戦後史的に変貌させつつある。わが国そのものが、ついにカンボジアに「国軍」を派遣するとともに、天皇・皇后を日本歴史上初めて中国に送りこんだこと自体が、戦後日本史の巨大な変化であり、アジア情勢全体の変動の重要な一環である。こうした変化をどう歴史の中で位置づけ、その先を社会変革の立場からどう展開するか。(山川暁夫)

【問題提起】山川暁夫、奥村皓一、本元茂夫、森正孝、松井聖一郎【司会】天野恵一、小島四郎

⑧日本国憲法をアジアから考える

「改憲」は、これまで「護憲」派の側からは、ほとんどタブーとされてきた。「改憲」を言えば、第9条が変えられる、という危惧があったからだ。しかし、第9条の実現は、アジアの人たちの協力なしに、日本人だけの力でできることであろうか。逆に、日本国憲法をアジア全体のものとすることによって、はじめて第9条は実現しうる。しかし、先ず日本の「護憲」運動のナショナリズムを根底から反省しなければならない。在日朝鮮人を始めとして、在日アジア人の生活と人権を守りうる憲法を作ることなしに、どうして全アジア人とともに第9条を実現することができるだろうか。(伊藤成彦)

【問題提起】吉川勇一、尹健次、鄭敬謨、陸培春、山内敏弘、鈴木喜久子、筒井真樹子、鷺谷サト、太田武二【司会】伊藤成彦【書記】木島淳夫

⑨天皇訪中と外交儀礼

アジアに進出するメディア天皇制
ナショナル・イベントとしての天皇訪中はどのように演出されたか。具体的資料をもとに検証と討論。アキヒトというクリーンな天皇を戴く「平和国家日本」というイメージ操作のカラクリを解き、天皇訪中の政治的意義の徹底的討論をととして、アジアに進出するメディア天皇制の機能と構造を浮きぼりにする。(内田真人)

【問題提起】小倉利丸、松本薫、新孝一、浅見克彦、天野恵一、野毛一起【司会】内田真人

⑩緊急分科会 女たちの選択

日本の戦争責任、戦後補償はたさないまま、自衛隊のカンボジア出兵の強行、佐川急便と金権政治に象徴される政治の腐敗に、女たちは怒り、行動を起しています。そこで緊急に女たちの討論の場を創ります。テーマはズバリ、解釈改憲状況ともいえる歴史の流れに抗する「女たちの選択」です。日本の女の一人ひとりの生き方、運動のあり様を、「在日」にあるアジアの女性とともに考えてみませんか。今、知恵もあり、元気もある女たちの討論への参加を待っています。(生田あい)

【問題提起】本尾良、李喜奉、白杵敬子、宮本なおみ、飯田菊恵、沢光代(交渉中)。韓国・太平洋戦争遺族会【司会】新美みつ子、生田あい

①～⑥分科会は東大農学部、⑦～⑩分科会は文京区民センターが会場